

なみまるくん

うみ・なかま
コミュニケーション

Hokkaido Gyoren Magazine Number 282 April 2012

4



北海道
ぎょれん



特集

平成24年度ぎょれん事業計画（前編）

北海道ぎょれんウェブサイト
<http://www.gyoren.or.jp/>

- 1 海ひと夢
株仙台水産代表取締役会長 島貫 文好さん
- 2 **特集** 平成24年度ぎょれん事業計画 ～前編～
- 8 トップセミナー
- 10 浜の家族物語
網走漁協 藤原 雄亮さん ご家族
- 11 頭すっきり!! ブレイクタイム
- 12 なみまるインフォメーション
- 15 クローズアップ宣伝事業
- 16 おまかせ設計センター
- 17 浜だより

能取岬はもうじき春です



市場の可能性で復興を支えたい

(株)仙台水産代表取締役会長 島貫 文好さん

地域の水産物 安定供給の重責を担う

私たち仙台水産は卸売業で、宮城県民をはじめとした東北全域に向けた生鮮魚介類の拠点市場です。卸売業として地場産業の復興、水産物の安定供給の重責を担い日々奔走しています。

前浜の魚を伝統的に食べることが、地域の特色ある生活習慣や健康維持に繋がってきました。これまでも宮城県の地魚文化に根ざした消費促進に努めており、産地と消費地との融合と食を通じた地域貢献、さらに工夫を凝らした魚食普及を目指しています。

浜の販売支援を続け 新たな市場の 可能性を見出す

千年に一度の震災被害を受けた浜の皆さんに対し、当面の問題を具体的に解決するため、それぞれの課題を丁寧に受け止め、出来得る限りの支援活動を続けてきました。ま



た震災後、15日間にわたり市場を連続開場して供給を続けました。

震災により宮城のカキ養殖も甚大な被害を受け、浜でカキの出荷に手を掛けられないため、私たちが氷やクーラーボックスを積んだ保冷車を仕立てて集荷し、当社の工場に運んで選別、パッキングして出荷しています。震災直後から自ら再建し立ち上がった人々たちにとって、当面の資金繰りになっています。この支援は非常に有効で、次第に仙台

市場に地場のものが集まりだし、生産者、消費者双方をコーディネートする中央卸売市場を見直すきっかけとなりました。

「現場」がすべての基本です

「喜びも悲しみもチャンスも現場にある」早朝から現場に出て自分の目、耳で確かめます。私の現場とは、生産から消費者までの一連の流れであり、生産者と消費者により近づき、お互いの顔の見える仕組みを取り入れ、新たな市場流通を見出したいと考えています。

北海道の浜の皆さんは一生懸命で心優しい方達です。北海道をはじめ全国の荷主さんから支えられ復興に向かってきました。「春は枝頭（しとう）に在りて已に十分」の思いで、地域という足元をしっかり見つめながら、これから少しずつ皆さんにご恩返しをしていきたいと思っています。

平成24年度ぎよれん事業計画 ～前編～



ぎよれん 西副会長

平成24年度の始めにあたり、ぎよれん西副会長に、平成24年度ぎよれんの事業計画について伺いました。4月・5月号の2回にわたってご紹介します。

大震災により環境が

激変した一年でした

ぎよれんでは平成23年度から「中期的事業推進方向」を掲げ、グローバル戦略、人づくり物づくりネットワークづくり、企業の社会的責任（CSR）の実践を打ち出しています。しかし、昨年の東日本大震災並びに福島第一原発事故の発生、そして歴史的な超円高や貿易自由化問題の急加速等、状況が一変し新たな対応が求められています。平成24年度は、道産水産物の安全・安心に影響を与えない原発の風評対策や、TPP参加問題などへの対応が大きな課題となっています。

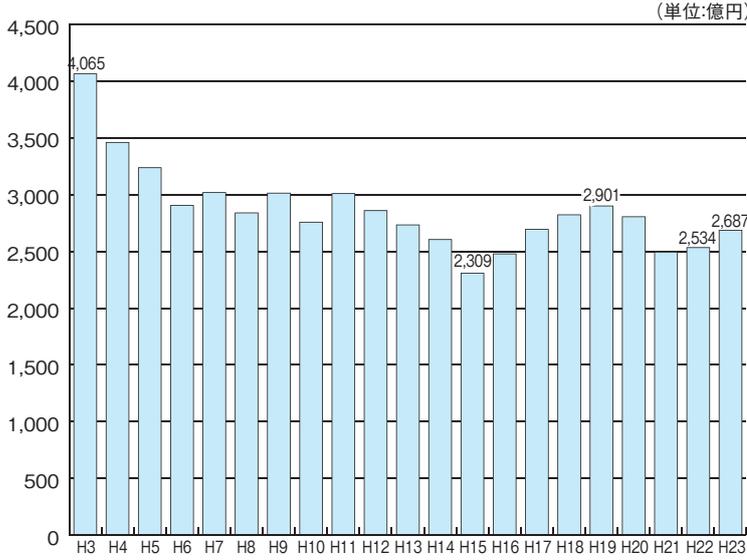
昨年の北海道の漁業生産は、基幹魚種の秋鮭・ホタテ・昆布の数量が軒並み前年を下回り、秋鮭については地域間で漁獲の格差が広がりました。一方水産物の消流は、世界的には需要が増大する一方、国内消費はデフレ・不況等の影響により減退しており、二極化が一段と進行しています。海外輸出はかつてない逆風が吹いています。国内需給対策としての海外輸出対策の強化を図り、総合的な魚価・流通安定対策を推進していきます。

強い北海道漁業の

確立に向け全力を傾注

今年から新たな水産基本計画がスタートし

全道漁獲金額の推移



北海道水産現勢より(平成23年は速報値)

ます。更なる漁業経営の安定に向けて、本道の漁業実態に即した国の水産施策の実現が今後の課題です。また原油価格は上昇基調が続き、全国一斉休漁を行った平成20年当時の水準に近づいています。国に対し、セーフティネット事業の拡充に向けた取り組みを働きかけ、系統燃油の価格安定化対策や、良質廉価な系統ブランド資材の普及拡大により、漁業経営コストの削減に取り組みます。

今年は国連の定める国際協同組合年です。協同組合運動の大切さを再認識する機会と捉え、連帯を深める具体的な活動を行っていきます。この厳しい時代だからこそ、浜とぎょ

指導事業について

1. 漁政対策

れんが一枚岩となり、強い北海道漁業の確立に向け、各事業の推進に全力を傾けていく所存です。

我が国の漁業をめぐる諸課題が山積する中、東日本大震災からの水産業の復興構想、貿易自由化問題などの新たな課題に直面し、水産政策は大きな転換期を迎えています。加えて、原発、放射性物質汚染問題については道産水産物の安全・安心を脅かしかねず、引き続き重点課題として取り組みます。特に貿易自由化問題は、今年大きな山場を迎えることから、本道漁業への影響回避に向け、組織を挙げて取り組み、強い本道漁業を目指し中期的視点に立った漁業振興策の確立等、真に浜の実状に即した諸施策の実現に向け、系統の総力を上げて取り組みます。

(1) 原発災害対策への浜と連携した組織的取り組み

- ① 北海道漁協組合長会議との連携による原発事故・放射性物質汚染の諸問題に対する漁協系統組織としての確かな対応
- ② 海洋への汚染水流出防止措置に向けた取り組み
- ③ 泊原発をはじめ原子力発電所の安全強化対策への取り組み
- ④ 放射性物質検査体制強化による安全・安心

体制の確保と国による被害補償措置に向けた取り組み

(2) 水産物貿易自由化問題への組織的取り組み

- ① 包括的経済連携(TPP、EPA等)の動向掌握と本道漁業への影響回避に向けた組織的対応
- ア. 全漁連等との連携によるTPP参加阻止に向けた組織を挙げた運動展開
- イ. EPA、FTA交渉での主要水産物の適用除外への取り組み
- ② ロシアのWTO加盟による本道漁業への影響回避に向けた取り組み
- ③ WTO交渉の動向掌握と的確な対応



昨年10月認定された「環境ISO」



TPPから日本の食と暮らし、いのちを守る国民集会
(昨年11月 東京両国国技館)

(3) 漁業経営安定対策に向けた取り組み

- ① 総合的な漁業収入安定対策の充実強化
ア. 資源管理・漁業所得補償対策の恒久化と収入安定対策の充実強化に向けた取り組み
イ. 漁業コスト安定に向けた燃油セーフティ・ネット構築事業の拡充並びに、燃油税制の免税措置恒久化への取り組み
 - ② 水産資源増大のための種苗生産・放流事業等の生産振興施策の拡充に向けた取り組み
 - ③ 省エネ・漁業構造改革推進のための経営体質強化への取り組み
 - ④ 有害生物(トド・アザラシ・オットセイ等海獣、クラゲ類、ザラボヤ、ヒトデ等)による漁業被害軽減対策の拡充強化並びに有害生物被害対策事業の継続に向けた取り組み
- ### (4) 水産物流通・加工・消費対策の強化に向けた取り組み

(5) 水産資源の持続的利用と資源に見合った操業体制の確立に向けた取り組み

- ① 国の水産物安定供給推進事業の再構築による需給調整施策の拡充強化に向けた取り組み
 - ② 北海道の実態を踏まえた6次産業化関連施策の実現に向けた産地流通・加工施設の整備支援制度の拡充への取り組み
 - ③ 水産物の輸出促進に向けたHACCP施設整備の支援並びに輸出手続きの簡素化等、輸出環境整備施策の拡充強化
 - ④ 若年層を主体とした魚食機会の拡充に向けた食育支援制度の創設への取り組み
- ### (6) 環境生態系保全活動の拡充(水産業・漁村の多面的機能の増進)

- ① 資源の回復・増大に向けた実効ある支援制度の実現とTAC制度運用の見直し等の資源管理強化への取り組み
 - ② 四者協議(国・道・沿岸・沖底)及び沿岸・沖底との全道・地域毎の各種漁業者実践協議会等の開催による資源に見合った操業体制の確立のための協議促進
 - ③ 資源と経営に見合う生産構造体制の実現に向けた取り組み
 - ④ 資源管理協定による資源回復・管理施策への継続取り組み
 - ⑤ 密漁防止・遊漁対策の強化
- ① 本道周辺海域の資源生産力の向上に向けた藻場・干潟・森林の造成及び維持管理支援施策の拡充強化
 - ② 環境生態系保全活動・離島漁業再生交付金

事業の拡充による漁村集落等の地域活動に対する「漁村集落直接支払交付金(仮称)」制度の創設

(7) 激甚災害法の指定基準改正等、災害対策支援施策強化への取り組み

- ① 激甚災害法の適用基準の緩和・対象範囲の拡大等の整備改善に向けた取り組み
- ② 流木等、海洋漂流物対策事業の拡充強化

2. 漁場環境保全対策

本道周辺海域の漁場環境、河川環境の更なる保全を目指して、森・川・海の繋がりを重視した「魚にやさしい川づくり」に向けた取り組みを強化し、近隣国由来による海洋汚染の防止を含めた海洋環境保全対策に取り組む、豊かな漁場環境の維持に向けた広範な情報収集と対策にあたります。さらに、漁業被害が増大している有害生物対策についても、取り組みを強化していきます。

(1) 有害生物(トド、アザラシ、オットセイ等海獣類、クラゲ類・ザラボヤ、ヒトデ等)による漁業被害対策の推進

- ① 関係行政機関等と連携した各種有害生物による被害実態の把握と追払い・駆除活動・被害対策などの総合的な対策の推進
- ② 有害生物漁業被害防止総合対策事業を活用した被害対策の充実強化

(2) 河川・海洋汚染防止に向けた環境保全対策の継続強化

- 「工事濁水・排水関連」**
- ① 水質調査・パトロールを通じた、河川・農業・



漁民の森づくりは今年で15回目を迎えます

道路・営林等の各種工事実施に伴う泥土砂・濁水流出防止対策と関係機関との協議の推進
 ②工場・事業場等による水質汚染等を防止するための環境保全対策と環境啓発活動の推進
【酪農系・農業系排水関連】
 農業関係団体等との全道レベルでの対策協議の継続と道内各地区での農協・農業関係団体と漁協等との協議促進

【廃棄物関係】
 ①漁業系廃棄物・残さの適正処理対策の検討
 ②漂流・漂着物対策としての地域グリーン・ユニーティール基金事業（※）の検討
（3）海洋環境保全対策に向けた情報の収集と対策の推進

①国内外のサハリン原油開発業者等との定期協議を通じた油流失事故未然防止対策の継続推進

②本道周辺沿岸海域における油流失事故発生時の防除体制整備と訓練の実施
 ③本道周辺の資源豊かな海洋環境保全を目指した環境情報収集ならびに海洋環境の変動やアムール川流域の汚染動向把握などの各種情報収集と関係機関への支援要請
（4）森・川・海のつながりを活かした森林環境保全対策の推進

①豊かな漁場環境を守るための「漁民の森づくり」による植樹・保育活動の推進
 ②植樹の意義を啓発する道内・道外に向けた普及活動
 ③コップさつぽろとの連携による植樹・保育活動の継続推進と「食の環境を守る協働の森林づくり促進事業」の事業確保に向けた取り組み

（※）地域グリーンユニーティール基金とは
 国全体として重要な環境問題を解決するために各地域で実施される環境事業を支援するため、国の補助金により積み増しされた地域環境保全基金。地球温暖化対策関係事業、一般廃棄物処理計画関係事業、PCB廃棄物処理計画関係事業、漂流・漂着ゴミ地域対策推進事業等を対象事業としている。

3. 指導・教育事業

国際協同組合年を契機として、協同組合意識の高揚による組織活動の強化と強い漁協づくりを目指し、漁協の人材育成と啓発活動の取り組みを強めます。あわせて現下の厳しい漁業経営環境に対応するために、漁協の業務運営適正化と経営健全化に向けた取り組みを強化していきます。

（1）漁協経営改善指導の重点的实施

経営健全化に向けて、改善取り組みを行う漁協に対して、漁協経営強化推進本部を通じた関係機関との連携による指導・支援の継続強化
（2）漁協の業務運営適正化に向けた監査の充実
 ①「JF全国監査機構・漁協監査部」への移行に合わせた各連との連携による監査体制の整備・強化
 ②内部けん制の体制・整備状況ならびに有効性に重点を置いた指導監査の実施並びに改善指導の充実強化

（3）2012年国際協同組合年にあわせた協同組合啓発活動の推進

①全道組合長会議50周年記念事業における漁協活動への支援
 ②協同組合運動啓発のための普及資料の整備と情報提供の強化
 ③漁協の人材育成に向けた研修活動への支援
 ④漁協青年部・女性部活動の一環としての協同組合運動にかかる教育研修支援
 ⑤第9次組合員意識調査と道漁青連50周年に呼応した青年部意識調査の実施

（4）研修活動の充実

①漁協役員研修の地区・ブロック開催と内容充実
 ②3ヶ年研修計画（H22～H24）に基づく職員研修の内容充実
 ア. 全道階層別研修（スキルアップ、協同組合運動、コンプライアンス等）
 イ. 地区・ブロック職種別実務研修（税務・法務等実務項目）

(5) 指導教育部門の機能強化

- ①産地支店における相談窓口機能の段階的強化
- ②指導部門情報の充実による情報提供機能の強化



毎年好評を得ている「漁師さんの出前授業」(上)
と「浜のおかあさん料理教室」(下)

販売事業について

近年、世界的な水産物需要が増大する一方で、デフレ・不況等により国内消費が減退する消費の二極化が一段と進んでいます。このような状況下、歴史的円高に加え、原発事故による放射性物質汚染問題が惹起し、輸出環境が一変しました。このため昨年は、この対応を最優先課題とし、国内消費の安定確保と対策的輸出、道産水産物の魚価・流通安定に取り組んできました。今年度は、歴史的円高による輸出の停滞、魚種によっては輸入水産物との競合が懸念されることから、風評被害を払拭しながら、環境

の変化に対応した国内需要の確保を基本としながらも輸出対策を併用し総合的な魚価・流通安定対策を推進します。

1. 市場・鮮魚事業

産地仲買人並びに消費地荷受の買付け機能の低下に加え、デフレによる需要低迷、低価格競争の激化から、更なる魚価対策としての処理・流通対策の強化が必要となつています。本年度は、浜と一体となった中期的な付加価値鮮魚の取り組みを拡充し、取り組み漁協の伸長を図るとともに、産地支店・漁協系統工場・提携工場等ぎよれんグループとしての連携強化により、国内のみならず輸出を併用した中で大量水揚げ時における総合的な処理・流通対策の拡充を図ります。

(1) 漁協系統販売事業の根幹である市場全利用共販の推進

(2) 鮮魚流通対策事業の拡充

①系統鮮魚取扱の推進

ア. 取り組み漁協の拡充強化と地域・魚種のブランド化支援

イ. 消費ニーズに対応した加工機器導入による付加価値鮮魚（3枚卸等）の取り組み強化と新商品の開発促進

②大量水揚げ時における魚価対策の推進

ア. 漁協との連携強化による対策対象魚種の全道規模への拡大

イ. 新たな商品開発と国内販路の定着化

ウ. 輸出の推進による海外販路の拡大

③漁協系統グループの加工機能強化

日本の水産物輸出動向



ア. 鮮魚流通事業と連動した「漁協系統加工原魚供給ネットワーク」の構築

イ. 工場毎の機能分担の明確化と連携強化

(3) 漁協との連携による市場販売債権の保全対策の強化

(4) 産地市場連絡会議における情報提供並びに地域課題の協議促進

2. 海外輸出対策

海外マーケットは、道産水産物の魚価・流通の安定化を図る上で、国内需給調整機能として国内市場とともに重要な位置づけにあります。この回復を早急に図る必要があります。本年度は、関係行政機関・団体との連携のもと、国の輸出促進事業を活用しながら、海外

マーケットの再構築に取り組みます。併せて安定供給体制の確立と輸出促進のため基盤を強化に向けた組織的な取り組みを推進していきます。

(1) 原材料輸出と末端実需者向け製品の輸出 対策の強化

- ① 漁協等との連携による生鮮魚介類・加工品の輸出継続と機能強化
- ② 海外商談会等への積極的参加による新たな販路開拓の促進

(2) 海外取引先（中国・韓国・米国等）との更なる組織的取り組み強化

本会および関連会社による直接貿易の量的拡大ならびに組織的取り組み強化

(3) 行政・漁協と一体となった輸出基盤の整備

- ① EU・HACCP工場認証の促進ならびに、輸出国の衛生基準への対応整備と充実
- ② MSCの早期取得推進による海外市場における道産水産物差別化への取り組み

(4) 円滑な輸出体制の確保に向けた対策の推進

- ① 関係行政機関との連携強化による放射性物質検査体制拡充に向けた取り組みの継続
- ② 風評被害状況に即した道産水産物の安全・安心アピールに向けた取り組み
- ③ 輸出事務の簡素化に向けた取り組み

(5) 輸出促進のための国の補助事業の有効活用による新市場開拓の推進

国の輸出促進支援事業の有効活用による輸出事業の規模拡大

購買事業について

石油製品や漁業資材の価格が上昇傾向にあり、漁業経営を圧迫しています。このため系統購買事業の充実により燃油の取扱体制の強化を図るとともに、系統ブランド資材の普及拡大を核とした漁業経営コスト削減に取り組みていきます。

(1) 石油製品

- ① 系統利用率の更なる向上による仕入ならびに価格牽制機能の強化
 - ② 道内物流環境等の変化に対応した基地タンクを核とする系統燃油供給体制の整備
 - ③ 共有燃油施設の計画的修繕による保安全管理体制の強化
 - ④ 全漁連との連携による需給逼迫時に備えた韓国産A重油の輸入取扱検討
- (2) 系統ブランド資材**
- ① 系統ブランド資材普及拡大による価格低減化への継続的取り組み



花咲油槽所(根室市)

- ② 価格競争力強化による、全道におけるシェア拡大

- ③ 「系統ブランド資材評価推進委員会」設立の年目としての地区需要・ニーズに対応した新商品・新仕様品開発への組織的取り組み（中国に代わる海外での生産拠点の開拓・ヤスデ駆除籠等新製品開発）

- ④ 漁協、マリノサポート(株)との連携による組織的普及活動の強化

- (展示即売会開催や各種部会への積極的参加)
- (3) 魚函**

- 環境・衛生に配慮した、「ポリ魚函（再生品含む）」の普及拡大

(4) 施設関連事業

- ① ぎょれん設計センター(株)との連携による漁協施設整備計画等への総合的「コンサルタント機能の発揮（積算・補助申請事務）」
- ② 会員・生産者向け、省エネ・省力化機器（システム）等の開発普及

(5) その他

- ① 購販推進委員会・漁協各種部会との連携強化
- ② 購買専門委員会・全道漁協購買事業推進会議・地区漁協購買担当者会議の継続開催
- ③ 漁協職員を対象としたメーカー視察・資材研修会の実施
- ④ 「購買情報」の適宜発行による購買関連情報伝達

なみまるくん5月号「平成24年度ぎょれん事業計画（後編）」では、品目別事業計画（秋鮭、ホタテ、昆布）を中心に紹介します。



トップセミナー

3月2日（金）トップセミナーが開催されました。全道から160名を超える参加者を集め、ぎよれん櫻庭会長の開会挨拶の後、水産庁資源管理部長の高島泉氏による「今後の水産政策の課題と方向性について」と題した基調講演、さらに経済評論家内橋克人氏による「TPP対抗経済を築く」と題した講演が行われました。

内橋克人氏の講演

「TPP対抗経済を築く」



経済評論家
内橋 克人さん

経済評論家内橋克人さんは、昭和7年兵庫県神戸市生まれ、新聞記者を経て経済評論家へ。30年前発刊された「原発への警鐘」では、その当時から原発神話への疑問を投げかけ、今回の原発事故を想定、90年代には一貫して、巨大資本による市場原理至上主義、新自由主義的な改革に対して警鐘を鳴らしています。また、国連国際協同組合年
全国実行委員会の代表も務めています。

警鐘を鳴らす「3つの危機」

日本社会にとって、今こそ協同組合の皆さんの力、経験、姿勢が必要とされています。日本の社会全体が危機に立たされています。大震災、原発事故、今日ほどの危機はありませんでした。私が警鐘を鳴らす3つの危機についてお話しします。

一つは原子力の利用です。「原発への警鐘」の出版から30年近く経過、福島第一原発の事故が発生しました。

二つ目は90年代に入り日本全体を覆った市場原理主義の改革で、市場競争原理に反するものを制御し、市場原理（マネーゲーム）の下に置く動きです。

三つめの危機は、日本社会の存亡です。TPP参加問題をはじめ、今後日本が自立し存続出来るのかというお話です。

震災と原発による日本の危機

震災後、私は被災地を数多く訪れています。被災地三陸のある首長が、「私たちには最後は海があると思っていた。海がいつかは静まり戻ってくる。何もかも失った私たちを救ってくれる最後の命綱だと思っていた。その海から放射性物質が検

出されました。」と涙ながらにお話しになりました。恵みを与えてくれる海で漁業が再開できず、造船・冷蔵・冷凍、IT、電気等漁業関連産業が復興出来ず苦しんでいます。東日本大震災は複合災害です。その被害を受けた人々が、同じ日本に悩みながら変わらなずいます。目の前にある危機に、国を挙げて救いの手を差し伸べなければなりません。

市場原理主義が招く危機

巨大な多国籍企業（グローバルズ）は、強力にTPP推進の世論を作ってきました。その結果野田首相はオバマ大統領に、すべての品目、主要な産業を交渉のテーブルに乗せると発言、TPPによるアメリカ主導の経済圏をアジアに作るうとしています。

私は90年代に入り、市場原理主義に警鐘を鳴らし続けましたが、2008年秋、リーマンショックが発生、未だに日本の金融機関も不良債権を抱えています。日本自らが市場原理主義に邁進し、防潮堤を内側から掘り崩してきた結果、リーマンショックによる大きな傷は癒えないでいます。

国を自立存続させ 正しい方向に向ける力 は協同組合にしかない

グマインシャフト（地縁・血縁等に基づく伝統的な社会）、ゲゼルシャフト（利害関係に基づいて作られた利益社会）とは一線を画し、協同組合は志や価値観が同じ人達による第3の共同体です。アメリカの描いた地図の通りTPPへ参加した場合、TPPへ対抗する経済を作らなければなりません。その中心的な役割を果たすのが協同組合です。社会的な正義・公正を守り、国を自立存続させ正しい方向に向けていく力は、今や協同組合以外にはありません。

「勇気のある人たちが賢く、賢い人たちが勇気を持った時に、人間社会に幸せというものがやってくる。」という作家エーリッヒ・ケストナーの言葉を噛みしめ、勇気を伴った賢さを取り戻し、協同組合の理想像を目指すべきだと考えています。

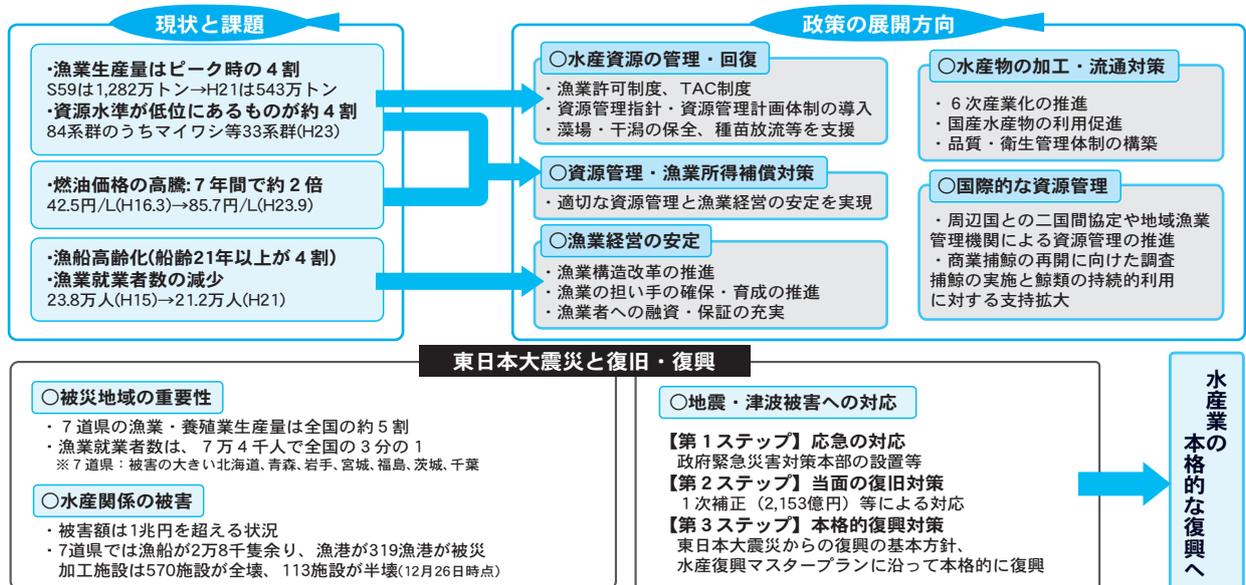
水産庁資源管理部長高島泉氏による基調講演

「今後の水産政策の課題と方向性について」と題し、東日本大震災からの復旧・復興という大きな課題や、漁業生産量の減少、燃油価格の高騰、漁業就業者数の減少などの現状認識と課題を示し、それに対する政策展開について解説しました。

水産政策の展開方向

- 漁業生産量 世界第5位（中国、インドネシア、インド、ペルーに次ぐ）
- 豊かな漁場 我が国の周辺水域の漁獲量は、世界の約2割（約2千万トン）。世界有数の漁場
- 排他的経済水域 世界第6位（国土面積の12倍、450万平方キロメートル）
- 食用魚介類自給率 平成22年60%（自給率目標：平成29年65%）

高島 泉氏



東日本大震災と復旧・復興

- 被災地域の重要性
 - ・7道県の漁業・養殖業生産量は全国の約5割
 - ・漁業就業者数は、7万4千人で全国の3分の1
 - ※7道県：被害の大きい北海道、青森、岩手、宮城、福島、茨城、千葉
- 水産関係の被害
 - ・被害額は1兆円を超える状況
 - ・7道県では漁船が2万8千隻余り、漁港が319漁港が被災
 - 加工施設は570施設が全壊、113施設が半壊(12月26日時点)

- 地震・津波被害への対応
 - 【第1ステップ】 応急の対応
政府緊急災害対策本部の設置等
 - 【第2ステップ】 当面の復旧対策
1次補正(2,153億円)等による対応
 - 【第3ステップ】 本格的復興対策
東日本大震災からの復興の基本方針、水産復興マスタープランに沿って本格的に復興

水産業の本格的な復興へ

浜の家族物語



「浜の家族物語」では、「なみまるくん」の表紙に登場するご家族を紹介いたします。今回は、網走漁協の藤原さんご一家です。

漁もスポーツも

忙しい雄亮さん

藤原雄亮^{ゆうすけ}さんは、風薫る5月頃から秋鮭定置網の準備が始まり、夏には青ツブ、北海シマエビ漁、9月からは秋鮭定置網漁、10月にはハタハタ漁も営んでいます。秋鮭を切り上げた12月からは、地元の運送業や網会社の仕事もこなして、年間通じて忙しく働いています。

21歳で漁師になった雄亮さんですが、高校卒業後2年ほど建築関係の専門学校に通い、設計の仕事に就きたいと考えていました。しかし途中で漁師へと舵を切ろうと父に相談すると、漁業研修所で準備を



するよう勧められ入所しました。子どもの頃から野球と共
に育った雄亮さん、今も社会
人野球チームで内野手として
活躍しています。

目標に向かって

着実に駒を進める

藤原さんご一家

「頑張り過ぎちゃうんですよね。」と笑う美奈さんは、美幌町出身のスポーツウーマンで、スピードスケート、陸上マラソンの選手経験があります。蒼空^{そら}くんは周りをいつも

楽しませてくれる小学3年生、ホッケー、野球、空手に通い、将来は野球選手になりたいそうです。姫星^{きぼし}ちゃんは一生涯懸命お母さんのお手伝いしてくれる小学2年生、アイスホッケー、ピアノを習い、新たにバスケットにも挑戦したいそうです。子供たちは一日で2つの練習の掛け持ちもあるとのこととで、藤原さんご一家の中心には、いつもスポーツがあります。

網走漁協青年部の副部長として、現状に満足せず秋鮭の付加価値向上に努めていききたいと話す雄亮さん、幼稚園の先生を目指して、今託児所でアルバイトに励む美奈さん、目標に向かって着実に駒を進める、藤原さんご一家の力強さを感じながら、網走ニッ岩の浜を後にしました。

《文／菅野 厚》



プレイタイム

クロスワードパズル

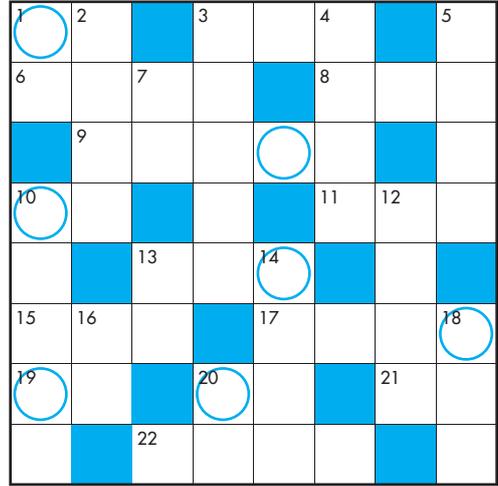
次のクロスワードを完成させ、○印に当たる言葉をうまく並べてください。ピカピカの一年生！友達たくさん出来るかな？

タテのカギ

- ① ○○の耳に念仏
- ② 赤いチャンチャンコを着る長寿の祝い
- ③ コレをする人をハイカーと言います
- ④ 端午の節句に入る○○○○湯
- ⑤ 春の○○○○。ワラビ、コゴミ、タラノメ
- ⑦ 空き○○、○○切り、○○詰め
- ⑩ 貝堀りとも言う干潮時の遊び
- ⑫ メンマの原料は？
- ⑬ 地味⇔○○
- ⑭ 短気
- ⑯ おにぎりに巻く海草
- ⑰ 色気より○○○
- ⑲ 太陽が沈む方角

ヨコのカギ

- ① 蛹や幼虫から成虫になること
- ③ デミグラスソースで作る「○○○ライス」
- ⑥ 開花度100パーセント
- ⑧ オーバーして使うと後で後悔するかも
- ⑨ 大型、飛び石の時もあります
- ⑩ 春夏秋冬
- ⑪ 清水の○○○から飛び降りる
- ⑬ 歯を支えるのに大事なところ
- ⑮ 日の入り⇔○○○
- ⑰ 東北地方をこう呼ぶこともあります
- ⑲ お寿司のお口直しに
- ⑳ 雨上がりに出来る七色の光
- ㉑ まな板の上の○○
- ㉒ 北海道の郷土料理。鮭を主材料とした「○○○○鍋」



正解者の中から抽選で5名の方に図書カードを進呈いたします。ハガキ、FAXもしくは電子メールに答えと浜のたより及びご意見・ご提言など、住所・氏名・年齢を書き添えて、どしどしご応募ください。

応募いただいた方の個人情報は、クイズ当選者への図書カード進呈と、広報なみまるくん「浜だより」の、おたより掲載（氏名・市町村名）にのみ、使用いたします。

応募先

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目1番地
北海道漁業協同組合連合会 総務企画部 広報担当
*FAX番号 011-(242)-3543(4月15日消印有効)
*電子メール info@gyoren.or.jp

解答 となります。

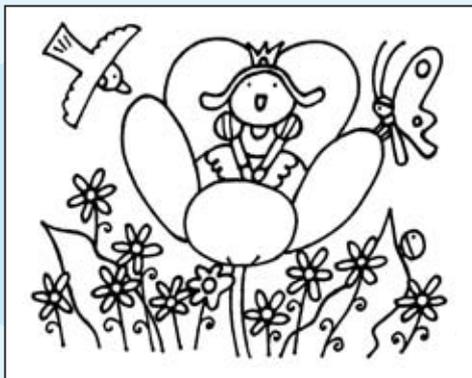
マ	ホ	ウ	ツ	カ	イ	マ
ド	ウ	ガ	ウ	キ	ヨ	エ
カ	イ	ダ	ン	シ	カ	
ア	ゴ	イ	ト	コ	ガ	
サ	ア	ブ	シ	シ	ミ	
ヒ	ナ	マ	ツ	リ	イ	
サ	チ	ウ	ス	ノ	キ	
タ	ウ	ヤ	ブ	ソ	ウ	ジ

3月号の解答と当選者
ユキドケ
(利尻富士町) 矢田あやのさん
(北斗市) 山瀬 聡さん
(厚岸町) 近藤 和子さん
(別海町) 竹田 秀雄さん
(豊頃町) 工藤 栄子さん

間違いさがし

間違いは5つです。

※右と左の絵には、5カ所の異なるところがあります。さあ、見つけてください。(印刷のズレや汚れは関係ありません。)



※答えは17頁にあります。

Information 1

平成23年度小樽地区三連合同研修大会開催

リーダーには一歩を踏み出す意気込みも必要

3月7日（水）に小樽市にあるグランパーク小樽において、小樽地区漁協マリンバンク・JF共済・購販推進委員合同研修大会が開催されました。11回目を迎えた今大会には各推進委員など約70名が参加しました。開会式に続いて『クイズde研修』と題して、参加者が各事業のクイズ計15問に挑戦、各連からの解答と解説を聞いて各事業への理解を深めました。ぎょれんの渡部小樽支店長は、昨年の水産物の輸出金額や漁業経営セーフティネット構築事業の概要、管内で旬を迎えたニシンの健康成分を問う四択問題を出題、管内主要魚種の動向やぎょれんの鮮魚対策事業、輸出入の動向、最近の燃油情勢についても触れながら、クイズの解答と解説をしました。

続いて、小樽市銭函出身の作家で小樽ふれあい観光大使を務める千石涼太郎氏が「明日の北海道のために」と題して講演を行いました。県民性に関する著書を多数執筆している千石氏は、北海道の発展・地域の活性化のためにはどんなリーダーが求められているかをテーマに、なかなか最初の一步が踏み出せず、あまり自ら動いてリーダーシップをとりたがらないといわれる道民性を例に出しながら、「これからは生産者も自ら情報発信していく時代です。何事も自分たちがやるんだという意気込みを持って、まずはやってみてください。はじめの一歩を踏み出すことが肝心です。」と各事業を推進する浜のリーダーにエールを送りました。



講師を務めた千石氏



資材展示コーナーでは推進委員の皆さんとマリノサポート株式の担当者が意見を交わす姿も見られました

Information2

安全・安心北海道水産物消費拡大取引懇談会開催

見て聞いて食べて北海道の水産物の 安全・安心を知ってもらう

秋鮭をはじめ道産水産物の放射性物質による風評被害を払拭する安全性のPRと消費拡大を目的に、北海道秋鮭流通対策協議会とぎょれんは、中国の大連市で懇談会と展示即売会を行いました。3月9日にフラマホテルで行われた懇談会には、日本から水産庁や道の関係者を含む30人が出席したほか、中国の行政、水産、流通、金融、メディア関係者ら120人の計150人余りが集まりました。北海道秋鮭流通対策協議会の阿部会長は「北海道の水産物は、自然の恵みに支えられた産品ばかりです。安全性はもとより、味覚、品質においても自信をもってご提供できるものと確信しています。」と挨拶、ぎょれんの櫻庭会長は「今後も安全で安心な秋鮭をはじめ水産物の安定した供給に万全を期して取り組んでいきます。」と述べ、道産水産物の安全性に理解を求め、より一層の消費拡大を呼びかけました。会場では、北海道の自然風景や秋鮭やホタテ、サンマなどの水揚げ・加工風景、鮮度管理、加工場の衛生管理などを紹介したDVDを上映、さらに道産水産物の放射性物質の検査体制について説明しました。また会場では、道産水産物を使った料理の展示・試食が行われ、鮭フライ、大根とイクラの和え物、きのことホタテ貝柱の特製炒め、一夜干し開きホッケ、サンマの蒲焼きソースとろみあんかけの5品が振る舞われました。また、新巻鮭やホタテ貝柱、ボイルホタテ、本冷サンマ、塩イクラなども勢揃いしました。

3月10日、11日の2日間には、大連湾魚市場で展示即売会を行いました。北海道水産物のPRポスターやのぼりで飾った店内には、秋鮭フライ、ホタテフライ、ホタテ玉冷、鮭トバ、秋鮭定塩フィレ、ホッケの一夜干し、イクラ、ソウハチやナメタガレイの干物などを用意、お客さんは製品の説明を受けながら試食して味を確かめ、商品を手に取る姿が見られました。



挨拶をする櫻庭会長



会場では道産水産物のおいしさや品質を伝える料理の展示・試食が行われました



展示即売会でお客さんへの商品説明をしている様子などが地元メディアにも取り上げられました

Information3

平成23年度全道漁協購買事業推進会議開催

系統燃油へ結集して 事業の更なる強化を目指す

3月19日に京王プラザホテル札幌で、平成23年度全道漁協購買事業推進会議が開催され、各漁協の購買担当者など80名余りが参加しました。ぎょれん西副会長の挨拶の後、田元参事が購買事業の来年度事業方針を説明し、特に価格が高騰している石油製品について、燃油取扱の系統集中を推進し、一層安定した供給体制の強化の必要性を強調しました。会議では本年度全道9地区で設立された「系統ブランド資材評価推進委員会」の活動が報告され、各地区で出た意見や課題を紹介した後、ぎょれん、マリノサポート、鹿部、えりも、宗谷の各漁協の担当者が代表して意見交換を行い、漁協からは「今後、資材提案や委員の意見を反映した商品開発で系統ブランド資材がより良くなって欲しい。」という期待する声も聞かれました。講演では、全漁連購買事業部若林次長が「東日本大震災発生以降の燃油の状況及びその対応について」と題し、震災時の全漁連油槽所の被害状況、震災直後の対応を説明しました。「国内元売の精製や物流の合理化で製油所が閉鎖され、漁業用燃油の確保が難しくなっています。また震災を教訓に緊急時の安定供給対策も必要で、ますます漁協、ぎょれん、全漁連の連携、系統利用への結集が求められています。」と系統燃油事業の重要性を訴えました。



系統燃油事業の重要性について説明する全漁連の若林次長



ステージ上で「系統ブランド資材評価推進委員会」について意見交換が行われました

Information4

宮城県名取市閉上のアサリ・シジミ漁業者へエンジン贈呈

沙留漁協と常呂漁協が船外機エンジンを寄贈

2月10日、宮城県名取市の名取市商工会館において全国支援船外機エンジン贈呈式が行われ、東日本大震災で被災した閉上地区のアサリ・シジミ漁業者に対して、沙留漁協、常呂漁協、(株)仙台水産から新品の漁船用エンジンが贈られました。贈呈式には、沙留漁協の横内組合長が出席し、佐々木名取市長に目録が手渡されました。震災で甚大な被害を受けた名取市閉上地区は津波によって漁船など全てを流失、全国から13隻の漁船が贈られましたが、エンジンの製造が間に合わず不足していました。今回寄贈されたエンジンは、閉上地区アサリ・シジミ漁の復興に活かされます。



贈呈式には閉上地区のあさりしじみ漁業者をはじめぎょれん小倉専務も出席しました

クローズアップ 宣伝事業

ほたての折込チラシ全国120万枚配布 ～ほたての産地から美味しさ・安心をPR～

北海道のほたてをもっと身近に感じていただこうと、「産地から発信するほたての魅力」「簡単・美味しいほたてレシピ」を掲載した折込みチラシを、3月下旬から、全国主要都市に120万枚配布しています。

表面では、実際にほたて産地で取材した水揚げの様子などを掲載しています。八雲町漁協・ほたて漁業部会長の新谷さんに協力していただき、生産現場の様子を消費者の皆様へ伝えることで、産地の見える安心感や良質感をPRする内容となっています。また、同漁協女性部長の新谷さん、副部長の小名さんによる浜のお母さんレシピも掲載し、産地感をより引き立てています。



中面には「第2回北海道のほたてスピードレシピコンテスト」入賞10作品を掲載しています。「調理が簡単・様々な料理に合う」といったほたての特徴を知ってもらうために開催されたレシピコンテスト。掲載レシピは、どれも手軽さ・美味しさが際立つものばかりで、審査委員長のケンタロウさんからのコメントや、受賞者からのワンポイントアドバイスも紹介しています。今月のなみまる君にも折り込んでいますので、是非チェックしてみてください。

いくらを 全国雑誌で紹介



4月10日発売の生活実用情報誌
「レタスクラブ4月号」を是非ご覧下さい。



なまかせ設計センター

身近なもので 家の臭いを ノックアウト



現在は、消臭剤がスーパーやホームセンターに並んでいますが、昔からの暮らしの知恵として、身近なものを使った消臭が行われてきました。今回から2回にわたって身近な消臭方法をご紹介します。

家の臭いのもと、灰皿、排水口、冷蔵庫、靴箱、トイレ、生ごみ容器、魚焼きグリルなど、改めて数えてみると種類も数も多いことに気づきます。

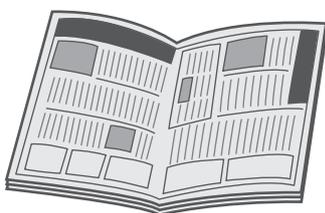
①木炭(吸着効果)

身近な消臭剤の代表格「木炭」には、無数の穴(多孔質)構造になっており、臭いのもととなるアンモニアや亜硝酸等を吸着します。部屋のインテリアとしても活用出来ます。



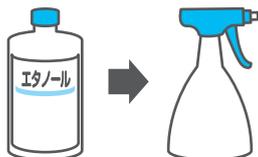
②新聞紙(吸着効果)

たたんで生ごみ容器の底などに敷いておくと、水分を吸着して臭いを抑える効果があります。



④消毒用エタノール液(分解効果)

消毒用エタノールは、タンパク質を分解しますので、主に臭いのもととなるタンパク質を分解して消臭効果があります。スプレー容器に移してトイレや生ごみに吹きかけて使用出来ます。



次回は、お茶、酢、塩、重曹を使った消臭方法についてご紹介します。

③コーヒーの出しがら(吸着効果)

焙煎したコーヒー豆の表面は木炭と同様に多孔質構造で、臭いを吸着しやすい成分を含んでおり消臭効果があります。コーヒーの出しがらを乾燥させてから使用してください。



浜の皆さんから「おうち」の疑問、質問、お悩みを募集しています。

宛 先：札幌市中央区北3条西7丁目1番地
北海道ぎょれん総務企画部広報担当
F A X：011-242-3543
メール：info@gyoren.or.jp

建築・設計に関するご相談は
(株)ぎょれん設計センター
TEL：011-281-8509

浜だより

ぎょれんのホームページが、今月から新しいデザイン・内容に生まれ変わりました。皆さんに「見やすく、わかりやすく、使いやすい」ことを意識して作りましたので、ぜひご覧ください。新生きょれんホームページをよろしく願います。(編集部)

3月4日鹿部ホタテ祭りに行って、焼きホタテを食べ、ホタテも買って帰りました。その日は天気も良く海も穏やかで、沢山の人で賑わっていました。とても楽しい1日でした。(北斗市 福永 謙一さん)

知人にえびしゅうまいの作り方を教わりました。えびの頭と皮を乾燥させ、粉末にしたものを色付けに入れたら、すり身がオレンジ色になり、とてもきれいに仕上がりました。ちょっとしたひと手間です。素材が活かされるものですね。作ってみる価値ありますよ。(初山別村 白府 美恵子さん)

春が一步一步近づいてきました。まだまだ寒い日が続いていますが、草も花の芽も少しずつ出てきています。早く暖かくなると海の方も大漁を願っています。(北斗市 山瀬 聡さん)

早朝と夕暮れ時の漁港の空気を吸うことが、私にとって一番体に合うようです。春の息吹が嬉しい岸壁には、刺し網・エビ罎の準備中でした。食卓に魚料理があれば何よりもありがたい、今年も豊漁・豊作であることを願っています。(島牧村 泉谷 泰三さん)

利尻は3月に入ってから流氷の影響で稚内、礼文行きのフェリーに欠航が続いています。こんな冬は物心ついてから記憶にありません。暖かい春が来るのが待ち遠しいです。(利尻富士町 矢田 あやのさん)

雪が解け日差しも柔らかくなり、春を感じますね。震災から1年が経過しましたが、復興支援はまだ継続していかなくてはなりません。ありとあらゆる力を結集して、がんばろう日本。(豊浦町 竹島 暁子さん)

流氷を見てきました。生で流氷を見るのは初めてです。同じ風景をたった30分経った後に見てみると、もう変わっているんです。自然の力すごいです。(初山別村 細野 京子さん)

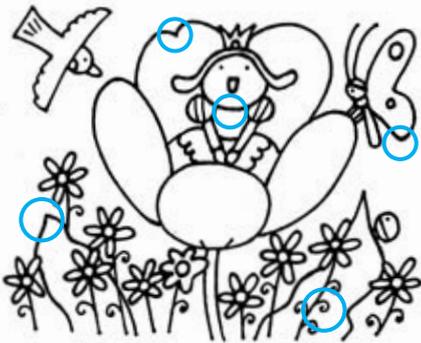
ウニむぎの仕事を辞めて、今は冬の間、鮭鱒の網作りをのんびりやっています。テレビを見ながら友人とおしゃべり。でも手だけは一生懸命かして休みません。(厚岸町 近藤 和子さん)

ほくのおじいちゃんはおカニを獲っています。おばあちゃんが茹でてくれる毛ガニは甘くてとってもおいしいよ。事故には気を付けていっばいカニを獲ってください。(利尻富士町 矢田 蓮允くん)

道東も3月よりホッキ漁でしたが、思いがけない流氷が接岸し、居座つているため海明けが遠のいてしまいました。早く去って欲しいですし、寒いです。皆さんお身体を大切に、風邪をひかぬよう頑張ってください。(別海町 竹田 秀雄さん)

4月の人事異動により、なみまる編集部を離れることになりました。2006年8月号から2012年4月号まで、69号のなみまるくんを無事発行することが出来、今は浜の皆さんへの感謝と安堵の気持ちいっぱい입니다。今後ともなみまるくんをよろしく願います。(菅野 厚)

11pの間違いさがしの答え



おふくろと 思いは一つ ライフジャケット

(社) 北海道漁船海難防止・水難救済センター



とぎ汁で海を汚さない、おいしい無洗米です。

新発売 **大漁御膳**
無洗米 **ななつぼし**

北海道 **ぎょれん** **ホクレン**

無洗米「大漁御膳」のお求めは、お近くの漁業協同組合へ

専門のノウハウ 浜に密着した機動力

漁業資材・施設設備で北海道の浜をサポート

マリノサポート 株式会社

本社 TEL(011)261-0884 函館支店 TEL(0138)22-4146 釧路支店 TEL(0154)41-7145 長万部営業所 TEL(01377)2-4118

